

「あらかると」を書くこと

「アーカイブスあらかると」を書くようになったのは、四国災害アーカイブスが部分的運用を開始した平成24年7月からです。それ以来、毎月、皆さんに少しでもアーカイブスへの関心を持っていただくために、アーカイブスを作成する過程で出会った興味深い話や役立つと考えられることなどを記してきました。「あらかると」の内容は、その時々に行っていたアーカイブスの作業にほぼ沿ったものとなっています。初回は四国各地の災害記録に学ぶことの大切さについて書き、その後、図書館などでの資料収集、収集した資料の内容、災害情報の整理、現地調査、アーカイブスの活用などについて記してきました。

「あらかると」を書くときに、心に留めてきたことが二つあります。一つは資料収集や資料整理、現地調査などの作業の過程で自ら感じたこと、考えたことをもとに書くということです。図書館で資料を収集したり、収集した資料を読み込んで整理したり、現地調査で地元の人に出会ったり、石碑などを探していると、興味深いことがいろいろ出てきます。その時に感じたこと、考えたことをもとに、「あらかると」を書くようにしています。アーカイブスの作業は地味で、時間がかかります。根気の要る作業ですが、時間がかかるために良いこともあります。それは、作業をしている最中に、いろいろなことを感じたり、考えたりすることができるということです。例えば、資料を読んでいる、災害時や被災後の人々の対応が昔も今も同じだと感じる場合があります。逆に全く違うと思うこともあります。地域によって対応が異なることもあります。なぜ同じなのだろう、なぜ違うののだろうなどと考えると、興味は尽きません。作業には時間的な制約がありますので、寄り道ばかりしているわけにはいきませんが、作業の際に感じたこと、考えたことをメモしておいて、それを素材として「あらかると」を書いてきました。

もう一つ留意してきたことは、「あらかると」を読んだ方が希望を持ち、将来に役立てることができる内容にしたいということです。四国災害アーカイブスの目的は、四国の地域防災力の向上です。災害が起こって、被害が出ましたというような事実を記すだけでは、希望が持てません。四国の災害に関する情報を扱っていると、災害時の教訓を後世に活かして災害の防止や被害の軽減に役立っている例や、災害記録の継承が人々の防災意識を高め、防災の取り組みを促している例、災害に関係する地域の先人に学ぶことを通して子どもたちの地域への愛情や誇りを育てている例などが各地にあることが分かります。また、アーカイブスの作成過程で知り得た情報の中には、地域の災害を学んだり、資料を集めたり、資料を読んだり、現地を訪れる時に役立つと考えられるものもあります。これらの情報をお伝えすることによって、「あらかると」を読んだ方が、自分や家族の身を守ったり、地域の災害を防いだり被害を軽減するために、先人の行いや過去の出来事からこんなことが学べるのではないか、自分にも何かできるのではないかと考えるきっかけにいただければという思いで書いてきました。

「あらかると」は一定の役割を果たしてきましたので、本格的運用を区切りに筆を置こうと考えていましたが、前回、四国災害アーカイブスは本格的運用で完成するのではなく、出発点に立ちますと書いてしまいました。やめるわけにはいかなくなりました。二つのことを心に留めて、もう少しだけ「あらかると」を書いていこうと思っているところです。